

青森県地域医療再生計画（西北五地域保健医療圏）～地域で心豊かに安心して暮らせる社会づくりのために～

（自治体病院の医療機能の再編・ネットワーク化を軸とした持続可能な医療提供体制の構築）

H22.1.6申請版

現状

個々の自治体が独自運営

公立金木病院
(一般146床、療養30床)



つがる市立成人病センター
(一般92床)



地域住民
西北中央病院
(一般356床、精神60床)



鰯ヶ沢町立中央病院
(一般140床)

医療機能が脆弱



鶴田町立中央病院
(一般70床、療養60床)

必要な医療が受けられず、
圏外へ流出

一般 804床
954床 精神 60床
療養 90床

課題

医師不足等により専門的医療機能が低く、医療を提供できない分野が多い。
医療機能の役割分担と連携の推進が必要。
病床過剰地域の一方、自治体病院の病床利用率が低い。
圏域内の5つの自治体病院が赤字経営で維持困難。
慢性的な医師不足。特に自治体病院の勤務医が少ない。
看護師が不足。高度医療を支える看護師が少ない。

実施後

目的: 地域住民が圏域で必要な医療を受けられる

・軽症患者の中核病院集中防止
・育児期間等における女性医師等の働く場の確保

・へき地・過疎地の医療確保
・急性期治療後の入院医療(回復期機能等)
・救急医療を始めとする初期医療

サテライト診療所

サテライト病院

医療情報ネットワーク化

地域医療連携の推進

開業医等民間医療機関

・急性期医療
・高度・専門医療
・医育機能の充実



主要な診療科、救急体制の充実・確保

認定看護師の育成

人事ローテート

健全経営

女性医師等勤務環境整備

医師の育成・支援

広域連合による一体的運営

寄附講座

修学資金の活用

一般 590床
634床 精神 40床
感染 4床

基金を充当する施策等



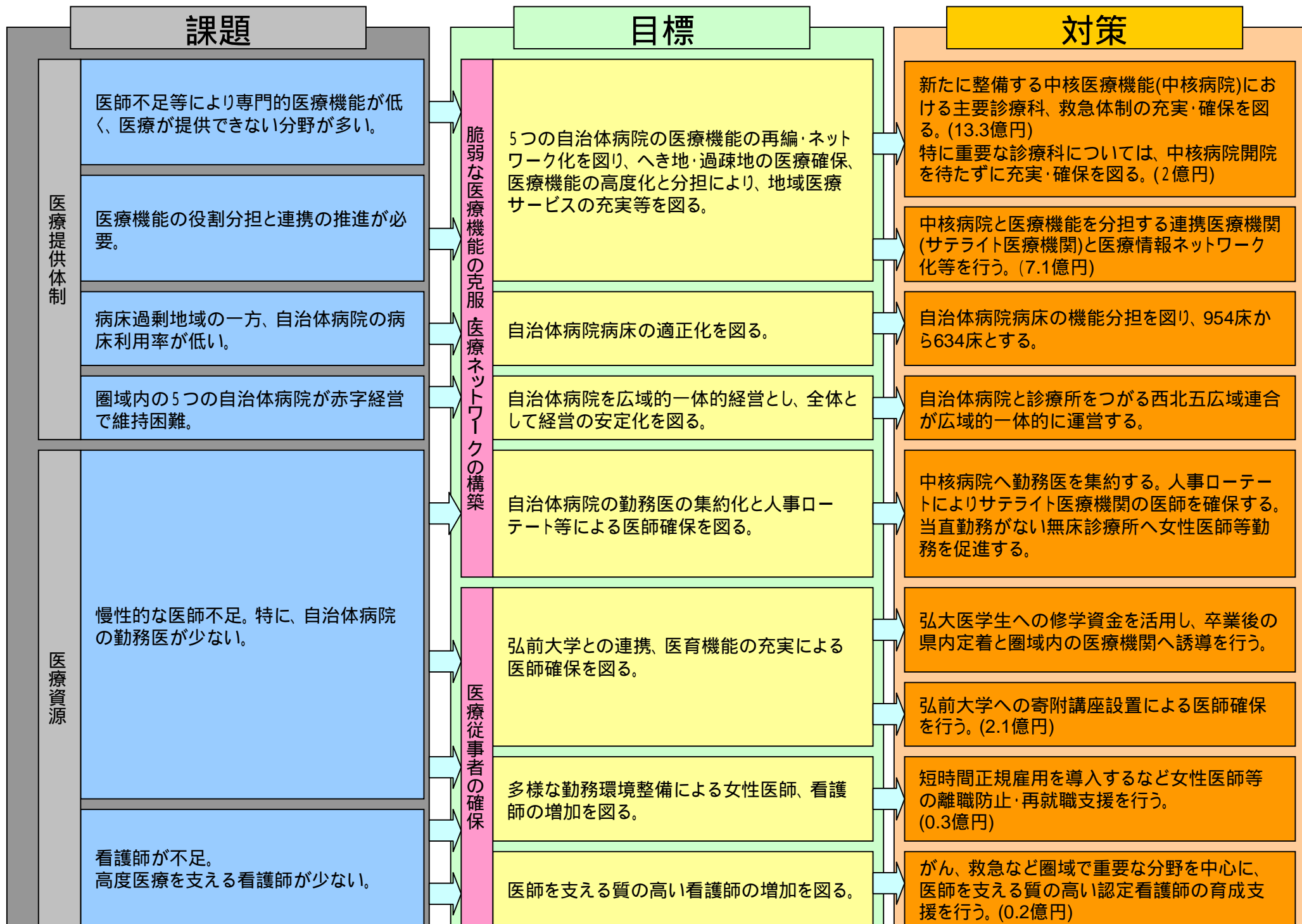
大学

主な取組

新たに整備する中核医療機能(中核病院)における主要な診療科、救急体制の充実・確保等初期医療等を担う連携医療機関(サテライト病院・診療所)との医療情報ネットワーク化等自治体病院病床の適正化を図る。(954床から634床へ)
広域的一体的運営により全体として経営の安定化を図る。

- 1 中核病院を中心とした医師の人事ローテートシステムを構築し、サテライト医療機関の医師を確保。
- 2 弘大医学生への修学資金の活用等による県内定着及び圏域への誘導
- 3 研修医等の教育・人材育成を行う寄附講座を大学に設置。
- 4 短時間正規雇用導入等による女性医師、女性看護師の勤務環境整備。医師を支える質の高い看護師の育成支援。

西北五地域保健医療圏における課題を解決する方策



青森県地域医療再生計画終了時の姿

(西北五地域保健医療圏)

地域医療崩壊の危機

住民



必要な医療が受けられない
圏外流出、未受診
健康状況の悪化

脳血管疾患、
心疾患等

生活への不安、不満

悪循環

医療従事者

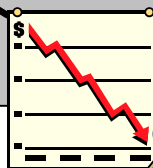
マンパワーの不足
勤務環境の悪化
多忙、勤務への不満

勤務医等離れ

市町

自治体病院の医療機能が脆弱
医療サービスの低下
病院の経営困難

病院の維持困難



地域医療再生計画の実行

心豊かに安心して暮らせる社会づくり

住民



圏域内で必要な医療が
受けられる
健康状況の好転・維持

安全・安心な暮らし

好循環

医療従事者

多様な勤務形態
(人事ローテ、短時間正規雇用)
魅力ある勤務・医育環境

勤務医等確保・定着

市町

自治体病院の医療機能の再編・
ネットワーク化
広域的一体運営
医療サービスの充実
全体としての経営安定

持続可能な医療体制

